

第 139 回 簿記 3 級 類似問題

次の建物に関する記帳は間接法によるものである。これを直接法で記帳するとどうなるのか答えなさい。

(ア) ~ (エ) に当てはまる適切な語句、または金額を記入しなさい。

間接法

		建	物		
H30.1.1	前期繰越	144,000	H30.12.31	次期繰越	144,000

建物減価償却累計額

H30.12.31	次期繰越	30,000	H30. 1. 1	前期繰越	6,000
			12.31	減価償却費	24,000

直接法

		建	物		
H30.1.1	前期繰越	(ア)	H30.12.31	(イ)	(ウ)
			〃	次期繰越	(エ)

第 4 問

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)

解答 各2点 計8点

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)
138,000	減価償却費	24,000	114,000

間接法

減価償却の際に、価値の減少分を資産のマイナス勘定である「減価償却累計額」勘定を使って処理するのが特徴です。

取得時 建物 144,000 / 現金等 144,000

決算時 減価償却費 24,000 / 減価償却累計額

決算時に減価償却累計額勘定を使って処理をするので、「建物」の金額に変動はありません。ずっと取得時のままです。今までの価値の減少分は「減価償却累計額」で確認できます。

直接法

減価償却の際に、価値の減少分を「固定資産勘定」を減少させて処理します。

取得時 建物 144,000 / 現金等 144,000

決算時 減価償却費 24,000 / 建物 24,000

		建		物	
H30.1.1	前期繰越	(138,000)		H30.12.31	(減価償却費) (24,000)
				”	次期繰越 (114,000)
	144,000 - 24,000				138,000 - 24,000